標本作製法

フリーズドライを利用した簡易剥製標本作成方法（その1　鳥類編）

三宅　隆

昔から、剥製作りを試みていたが、年と共に細かな作業がしづらくなり、フリーズドライの器械を利用して、簡単に剥製を作ることを考えてみた。

使用したフリーズドライ（真空凍結乾燥器）：ADVANTEC 240DA ドライチェンバー３段 (写真 16)
準備する物 : 解剖器具（メス・ピンセット）紙粘土、ディスポ注射器、18 ゲージ注射針、人形用の目玉、針金、脱脂綿、丸棒（止まり木用)、木の台（写真 1）

今回はタシギの作成例

1. 体測 : 作成前に、標本としてのデータ（年月日、場所、採集者など）をチェックし、体測（体重、頭胴長、尾長、翼長、フショ長、嘴長）する（写真 2)。
2. 眼瞼から、ピンセットとメスを用い、眼球を取り出す（写真 3)。

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

注意点：周囲を汚さないように。血で汚れたら過酸化水素水（オキシドール）で洗う。

3. 空洞になった眼窩に、紙粘土（100 均のホイップクリームがよい）を注射器に入れ、空洞を埋める（写真４）。
4. 少し時間を置いて、人工的な目玉（手芸センターで人形用の目を購入）を入れ込む（写真 5，6）。
   注意点：鳥の目の大きさによって、2～8㎜位まで、種々の目玉を使用する。
5. 腹部の正中線の下腹部をメスで切開し（小鳥だと 1 ㎝以下）そこから臓器（腸管、胃、肝臓）をピンセットで取り出す（写真 7）。
6. 腹部の内部をピンセットで脱脂綿をつかんで、中をきれいに拭う。その後、防虫、防腐剤（防虫、防腐処理の標本粉、ホウ酸 2：明礬 1：樟脳又はパラゾール 1 を粉末にして乳鉢にて乳棒でよく混ぜる）を腹腔内に薬匙などを使って適量入れる。その後脱脂綿を少しずつ入れて腹腔を埋め、元の腹部の大きさになるように詰め込む。詰め込んだのち腹筋と皮膚を合わせ、ボンドを中に入れて穴を閉じる（写真 8，9，10）。
   注意点：腹部の毛が血液で汚れたら、過酸化水素水（オキシドール）を綿につけ、血液を拭い取り、ドライヤーで乾かす（写真 11）。
7. 脚の裏から、針金（鳥の大きさによって径 0.1~2 ㎜位まで種々）を少しずつ丁寧に差し込み、関節を通して、股関節付近まで筋肉の中に差し込む。止り木や台の長さを考慮して、針金の長さを決める（写真 12，13）。
8. 針金を止り木や台に差し込み、裏で仮止めする（写真 14）。
9. 一度冷凍庫に戻し、３０分ほどの後、凍結しはじめの時に体の体勢を調整する。
   注意点：ここで、姿勢をきちんと決めないと、器械に入れた後は修正できない。
10. 冷凍庫で再凍結した後、フリーズドライの器械に入れ、最低 5 日間ほどそのままにして凍結乾燥する。その後取り出して、完成させる（写真 15）。

利点：皮膚を剝がして筋肉を取り除く手間と技術がなくて済み、小鳥なら数時間の作業で完成し器械に入れられる。
欠点：器械の大きさ（内径 23 ㎝、高さ 10 ㎝）から、大きい鳥は入れられない。

限度は、シロハラ・ツグミ大程度。トラツグミだと少しきつい。

器械に入れる前にきちんと姿、形を整えないと、完成後は殆ど直せない。

今のところ、標本害虫による被害はないが、今まで作製して最高 6 年であるので、今後どれくらい標本が維持できるかは不明。湿気には弱いと思われるので、保管の仕方が大事と考える。

今までにこの方法で、100 点ほど作成したが、まだまだ試作の域を脱しておらず、今後とも試行錯誤して作成していくつもりである。

今までに作成した鳥類標本（写真 17，18）。

13

14

15

16

17

18